

伊都国散策マップ

日向峠より朝日が昇る伊都国
今に残された遺跡より
太古の息づかいが聞こえる。



伊都国歴史博物館



伊都国歴史博物館では、平原遺跡から出土した日本最大(直径46.5cm)の銅鏡「内行花文鏡」(国宝)をはじめ、三雲南小路遺跡などの伊都国王墓の出土品を中心に展示しています。
また、大スクリーンに展開する映像で弥生時代に国際交易の窓口として繁栄した伊都国の様子を伝えます。
新館4階は本島の風景が一望できる展望スペースや、定期的に博物館講座を行っている研修室などがあります。
旧館では、古墳時代後期から近世までの歴史や文化財を紹介しており、国史跡怡土城や雷山千手寺に関する資料も展示しています。

- 開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が休日の場合はその翌平日)、年末年始
- 入館料 一般210円/高校生100円
※団体は20名以上、一般100円、団体高校生50円
- 65歳以上または障害者手帳をお持ちの方、その付き添いの方(1名)、中学生以下は入館料無料
- 駐車場 約80台(無料)

住所 福岡県糸島市井原916 TEL 092-322-7083
E-Mail itokoku-museum@mist.ocn.ne.jp
URL http://www.city.itoshima.lg.jp/soshiki/33/hakubutsukan.html

ファームパーク伊都国



都市(消費者)と農村(生産者)の交流に取り組み、農業・農村活性化推進の拠点施設です。
園内には、新鮮野菜の直売所や交流室、研修室がある「にぎわいの館」をはじめ、木工体験ができる「トンチ子館」、「わいわい広場」がある「農園」などがあり、「農村を楽しむ体験」グリーンツーリズムを体感できます。
また、昼食時は地元野菜を使った郷土料理などを提供しています。

- 開館時間 9:00~17:00
- 野菜等直売所営業時間 9:00~16:00

住所 福岡県糸島市高祖747-1 TEL 092-322-7661
E-Mail fpitokoku@smile.ocn.ne.jp
URL http://www17.ocn.ne.jp/~farmito/

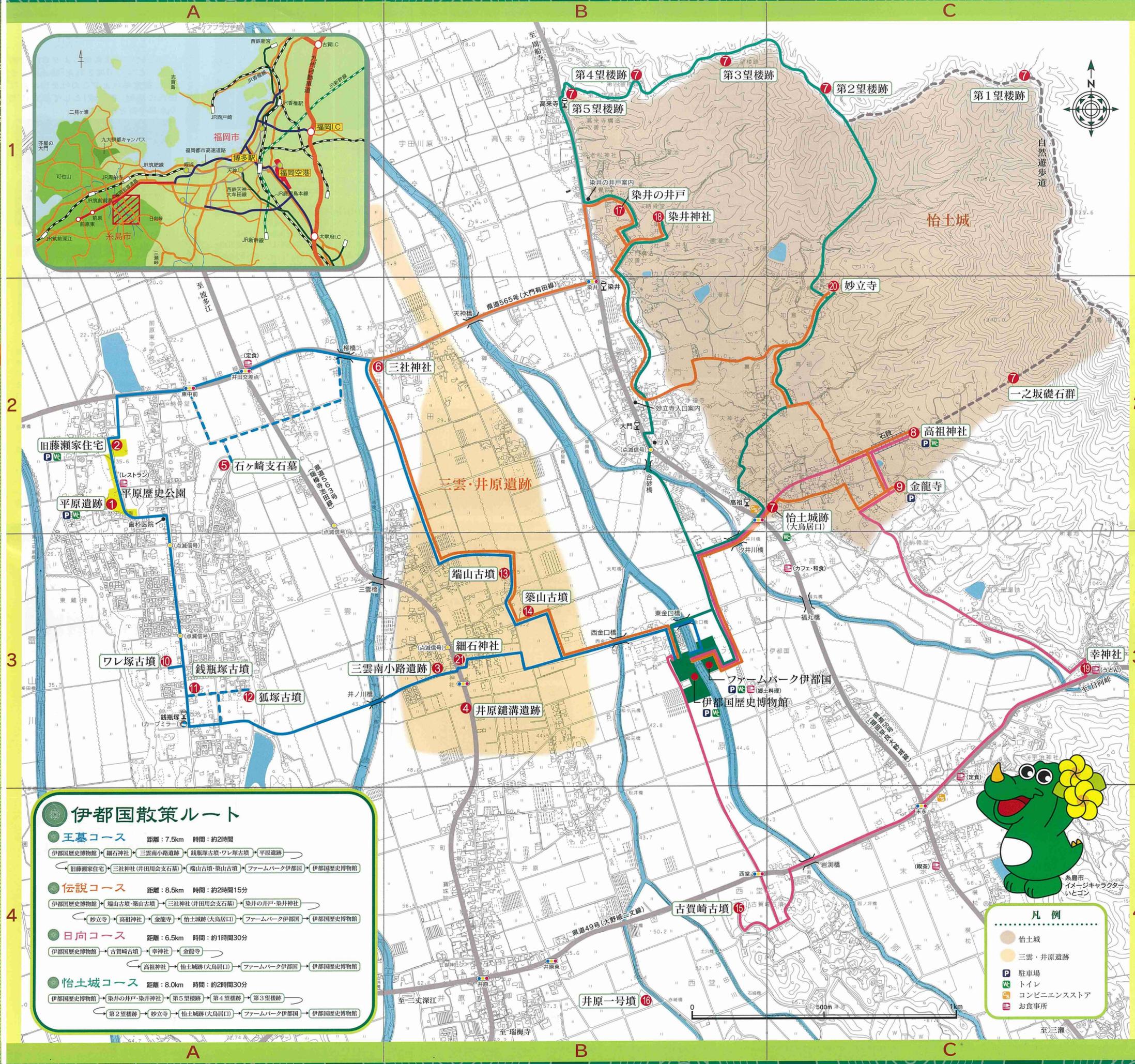
交通アクセス

■車 JR波多江駅・高船寺駅から共に車で約10分(5km)
(福岡市方面)九州自動車道福岡インターまたは、太宰府インターから福岡都市高速道路経由、西九州自動車道今宿インターをおりて、国道202号バイパス藤氏交差点を左折、約8分(唐津方面)国道202号バイパス波多江交差点を右折、約8分
■バス ①JR波多江駅よりミニバス井原山原山入口行き「伊都国歴史博物館前」バス停下車
②JR高船寺駅よりミニバス川原川原行き「高祖」バス停から徒歩約10分
※福岡昭和タクシー(株)前原営業所:TEL092-331-8831



文化財に関する
お問合せは...

糸島市教育委員会 文化課へどうぞ
〒819-1392 福岡県糸島市志摩初30番地
TEL092-332-2093 FAX092-327-2707



伊都国散策ルート

- **王墓コース** 距離: 7.5km 時間: 約2時間
伊都国歴史博物館 → 細石神社 → 三雲南小路遺跡 → 鏡塚古墳・ワレ塚古墳 → 平原遺跡
→ 旧藤瀬家住宅 → 三社神社(井田用会支石筋) → 端山古墳・築山古墳 → ファームパーク伊都国 → 伊都国歴史博物館
- **伝説コース** 距離: 8.5km 時間: 約1時間15分
伊都国歴史博物館 → 端山古墳・築山古墳 → 三社神社(井田用会支石筋) → 染井の井戸・染井神社
→ 妙立寺 → 高祖神社 → 金龍寺 → 怡土城跡(大鳥居口) → ファームパーク伊都国 → 伊都国歴史博物館
- **日向コース** 距離: 6.5km 時間: 約1時間30分
伊都国歴史博物館 → 古賀崎古墳 → 幸神社 → 金龍寺
→ 高祖神社 → 怡土城跡(大鳥居口) → ファームパーク伊都国 → 伊都国歴史博物館
- **怡土城コース** 距離: 8.0km 時間: 約2時間30分
伊都国歴史博物館 → 染井の井戸・染井神社 → 第5望楼跡 → 第4望楼跡 → 第3望楼跡
→ 第2望楼跡 → 妙立寺 → 怡土城跡(大鳥居口) → ファームパーク伊都国 → 伊都国歴史博物館



- ### 凡例
- 怡土城
 - 三雲・井原遺跡
 - P 駐車場
 - ♻ トイレ
 - CS コンビニエンスストア
 - 🍽 お食事所

伊都国 (王墓)

古代国家「伊都国」。それは魏志倭人伝に「代々王あり」と記述され、強大な力を持っていたと言われている。それを裏付ける史跡が今に残されている。



国指定史跡 1 平原遺跡 P Wc 地図A-2 (ひらばるいせき)

■弥生時代後期～終末期(2世紀頃) 伊都国の王墓と考えられる1号墓を中心とした墳墓遺跡で、昭和40年(1965年)に発見されました。

副葬品は銅鏡40枚、鉄刀1本、ガラス製勾玉やメノウ製管玉などの玉類が多数出土しました。銅鏡の中には直径46.5cmの内行花文鏡(日本製)が5枚あり、これは日本最大で非常に貴重なものです。また、ひとつの墓から出土した銅鏡の枚数も弥生時代では日本一多く、伊都国王の墓にふさわしい内容です。

また、副葬品の中に武器はほとんどなく、ネックレスやブレスレットなどのアクセサリーが多いことから、この墓に葬られた人物は女性。すなわち女王ではないかと考えられています。出土品は国宝に指定されており、伊都国歴史博物館に展示されています。

市指定文化財 ～平原歴史公園～

2 旧藤瀬家住宅 地図A-2 (きゅうふしせけしゅうたく)

旧中津藩の庄屋を務めた神在の藤瀬家の住宅を、平原歴史公園内に移築復元したもので、元文2年(1737年)に建築された九州では最古級の民家建築です。カヤ葺き寄棟造りの大型住宅で、役人を迎える玄関や座敷など、江戸時代中期の庄屋住宅の特徴を残しています。

藤瀬家は中津藩神在村庄屋職を務めていたことから、多くの古文書類も残されており、伊都国歴史博物館で保管しています。



国宝 内行花文鏡



国宝 メノウ製管玉

国宝 ガラス製勾玉

市指定史跡

3 三雲南小路遺跡 地図A-3 (みくもみぬみしょうじいせき)

■弥生時代中期後半(紀元前1世紀頃) この遺跡は江戸時代終わりごろの文政5年(1822年)に発見されました(1号墓)。その後、昭和50年(1975年)、福岡県教育委員会によって発掘調査が行われ、新たに2号墓が発見され、銅鏡22面以上、ヒスイ製勾玉、ガラス製勾玉、管玉などが出土しています。

1号墓からは銅鏡35面、銅剣、銅戈、銅矛、勾玉、管玉、壘、金銅製四葉座飾金具が出土しており、江戸時代に出土した銅鏡1面と銅剣1本が福岡市内の禅寺に伝えられ、国の重要文化財に指定されています。

弥生時代の墓としては巨大なもので、他には見られない豪華な副葬品を持つことから、伊都国の王の墓であると考えられています。また、副葬品の内容から1号に王が、2号に王妃が埋葬されたと考えられます。

出土品の一部は近くの伊都国歴史博物館に展示されています。



5 石ヶ崎支石墓 地図A-2 (いしがさきしせきぼ)

■弥生時代早期～前期(紀元前4～前2世紀) 昭和24年(1949年)に発掘調査が行われ、それは支石墓ではわが国初の計画的な調査でした。発掘調査では、支石墓1基、甕棺壟23基、土壘壟3基が発見されています。

上石は長さ3.2m、幅2.8mの巨大なもので、副葬品として碧玉製管玉12個が出土した非常に珍しい支石墓です。



4 井原鍬溝遺跡 地図A-3 (いわりやみそいせき)

■弥生時代後期(紀元1～2世紀) 江戸時代の天明年間(1781～1788年)、怡土郡井原村の鍬溝という所から銅鏡を多数副葬した甕棺が発見されました。これが井原鍬溝遺跡です。このとき発見された出土品は現在伝えられていませんが、その図が「柳園古器略考」(青柳種福著)に記録されています。それによると銅鏡21面、巴形銅器3個、刀剣の類、鍬の板の様なものなどが出土しています。出土した銅鏡はすべて中国製のもので、この甕棺は出土品からみて弥生時代後期(約2000～1800年前)のもと考えられます。

この遺跡も出土した豪華な副葬品から伊都国王の墓と考えられ、三雲南小路遺跡に埋葬された王の何代か後の王が埋葬されたものと考えられます。現在、遺跡の場所は不明ですが三雲南小路遺跡の南約100mあたりに「井原ヤリミノ」という地名があり、その下に井原鍬溝遺跡は眠っていると考えられています。



6 三社神社 地図A-2 (さんしやしんじや)

井田の三社神社の境内には二つの巨石が置かれています。これはいずれも付近にあった井田用会、井田御子守の二つの支石墓の上石です。

井田用会支石墓上石 市指定文化財 (いたようえいせきぼうわいし)

■弥生時代早期～前期(紀元前4～前2世紀) 井田用会支石墓は三社神社から北へ約600mの水田の中にありました。上石は35.5cm×30.2cm、厚さ約37cmで支石墓の上石としては糸島地方最大で、国内でも最大級のもです。副葬品と思われる管玉22個が出土していますが、これは朝鮮半島にみられるものと同じです。

井田御子守支石墓上石 (いたおごもりしせきぼうわいし)

■弥生時代早期～前期(紀元前4～前2世紀) 井田御子守支石墓は三社神社から東へ約300mの集落の中にありました。上石は24.0cm×24.0cm、厚さ約100cmで、形が整えられた厚い石が使われています。埋葬施設については不明です。



井田御子守支石墓上石

山城

8世紀に吉備真備により日本防衛の拠点として築城された「怡土城」。その後、鎌倉時代よりこの地を治めた原田氏の居城「高祖城」として永きに渡り糸島半野を睨んだ。



7 怡土城跡 地図B-1、C-1、2 (いとじょうあと)

●第1望楼 ●第2望楼 ●第3望楼 ●第4望楼 ●第5望楼 ●怡土城大鳥居口跡 ●一之坂礎石群

怡土城は糸島市と福岡市との境にある高祖山(標高416m)の西斜面一帯に築かれた奈良時代の山城です。『続日本紀』によると、天平勝宝8年6月(756年)から神護景雲2年2月(768年)まで約12年の歳月をかけて完成したとされています。築城担当者は当初は吉備真備でしたが、途中から佐伯毛毛人に交代し完成しました。

当時をしのぶ遺構としては8か所の望楼跡、山裾には南北約2kmにわたる土塁が確認されています。怡土城の特色の第1点は国の歴史書にその築城の担当者とその期間が明確に記録されていること、また第2点は中国式山城の築城法が採用されていることです。

怡土城は9世紀初めまでは「城」として機能していたようですが、その後、廃城になった怡土城を再利用して「高祖城」が築城されました。



8 高祖神社 P Wc 地図C-2 (たかすじんじや)

祭神 彦火出見尊[ヒコホホメノミコ] 玉依姫命[タマヨリヒメノミコ] 神功皇后[ジungkoukougo]

古代より怡土郡の惣社と崇敬される神社で三代実録に、元慶元年九月二十五日発亥「正六位高祖比賣神に從五位下を授く」と記されています。

【高祖神社本殿・拝殿】県指定文化財

中世の高祖神社は、原田氏の保護を受け、社殿の建替が数回行われています。記録によると、現在の本殿は1500年代に建築され、1662年に修理・再建されています。本殿は三間社流造とよばれる神社建築に特有の形式で、内陣と外陣で構成され、屋根は檜皮葺、柱は円柱です。拝殿は18世紀前期の入母屋造りの瓦葺です。このように、後世に若干の改変を受けつつも、建造時の姿を維持していることから、県の有形文化財の指定されています。

【高祖神楽】県指定文化財

高祖神楽は今から五百数十年前の応仁元年、戦国動乱の時代、時の高祖城主原田種親が京都守護の任にあつた時に習得した「京の能神楽」を郷土に伝えたものとされています。江戸時代までは旧怡土郡の神職の奉仕で舞われていましたが、明治になってからは高祖神社の氏子によって受け継がれました。

現在は十数人の氏子の神楽師によって毎年春(4月26日午後1時から)と秋(10月25日午後6時から)の2回、高祖神社境内の神楽殿で奉納されています。



9 金龍寺 P 地図C-2 (きんりゅうじ)

1508年原田興種が建立、原田氏の菩提寺とした禅寺で、境内には原田家の墓があります。庭園は借景庭園で、ツツジの咲くころには高祖山の緑に映え、まさに名勝と呼ぶことができます。



21 細石神社 地図B-3 (さざれいしじんじや)

祭神 木花開耶命[コハナサカヤヒメノミコ] 磐長姫命[イワナガヒメノミコ]

伊都国の中心にあり、以前は神田も多く大社でしたが、太閤検地により田畑を召し上げられ衰退したと伝えられています。また、細石(さざれいし)や井原(いわり)、岩置(いわき)、千代(ちよ)、福岡(ふくおか)などの名や、志賀島神社の神事の台詞から、「君が代」の起源がこの地域にあるという説もあります。

古墳

糸島地方には、約60もの前方後円墳をはじめとして、多数の重要な古墳がある。特に、伊都国の都と推されるこの地域には重要な古墳が多い。



10 ワレ塚古墳 地図A-3 (われづかこふん)

■古墳時代後期(6世紀頃) 全長約42m 曾根丘陵の中央部に位置する前方後円墳。古墳は前方部を北に向け、短い帆立形です。後円部は2段に造られていたと考えられ、墳丘の斜面には葺石が施され、埴輪が立っていました。また、墳丘のまわりには幅約7mの周濠がめぐっていたと考えられています。

出土品は須恵器、円筒埴輪、馬形埴輪などがあります。

11 銭瓶塚古墳 地図A-3 (ぜにがめづかこふん)

■古墳時代中期(5世紀頃) 全長約48m 曾根丘陵の中央部に位置する前方後円墳。現在の古墳は前方部と後円部の一部を道路によって壊されています。古墳は前方部を西に向け、墳丘のまわりには幅約6～9mの周濠がめぐっていました。周濠内から円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪が出土しており、伊都国歴史博物館に銭瓶塚古墳から出土したと伝えられる家形埴輪があります。



12 狐塚古墳 地図A-3 (きつねづかこふん)

■古墳時代中期(5世紀頃) 直径33m 曾根丘陵の東端部に位置する円墳。もともと高さは現状より1mほど高かったと考えられ、墳丘の斜面には葺石が施されています。墳丘のまわりには幅6～10mの周濠がめぐっていました。

埋葬施設は横穴式石室と小型の竪穴式石室で、副葬品は刀子(ナイフ)5本、鉄鏡2本、鉄斧1個などが出土しています。現在、石室と周濠は埋め戻されて見ることができません。



13 端山古墳 地図B-3 (はやまこふん)

■古墳時代前期(4世紀頃) 全長約78m 前方部が北を向いた柄杓形の前方後円墳でしたが、前方部の墳丘は削られてしま、現在は後円部だけが残っています。墳丘のまわりには扇形の周濠があったと考えられています。



14 築山古墳 地図B-3 (つきやまこふん)

■古墳時代前期(4世紀頃) 全長約60m 前方部を北西に向けた前方後円墳ですが、前方部も後円部も一部が壊されています。墳丘のまわりには扇形の周濠があったと考えられます。また、周濠から壘型の埴輪が出土しており、埴輪には埴輪が立てられていたと考えられています。

15 古賀崎古墳 地図B-4 (こがさきこふん)

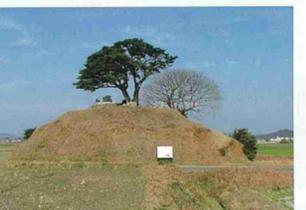
■古墳時代後期(6世紀頃) 直径約20mの円墳と考えられています。墳丘は周辺の造成によりほとんど破壊されているため、前方後円墳である可能性もあります。埋葬施設は南側に入口を持つ横穴式石室ですが、大きく破壊されています。石室内からは大刀、馬具、須恵器などが出土しています。大刀は柄頭に龍をかたどった装飾が付けられた逸品で、須恵器も装飾性に富む珍しいものです。これらの出土品は伊都国歴史博物館に展示されています。



16 井原1号墳 地図B-4 (いわり1ごうふん)

■古墳時代前期(4世紀頃) 全長約43m 前方部が北に向う前方後円墳で、墳丘は前方部2段、後円部3段に造られています。葺石も施されています。埋葬施設は大型の箱式石室で、後円部の中央に位置しています。

この古墳は水田の中に線におおわれた墳丘がほとんどあるのが、県道大野城二文線からよく見えます。



伝説

この地には、古代より人々が住み、様々な営みがなされた。その中で、今なお語り継がれている伝説が存在する。

17 染井の井戸 地図B-1 (そめいのいど)

この井戸には、大和朝廷の時代、神功皇后が仲哀天皇の白生地を沈められると、その鍬が真っ赤に染まったという伝説があります。



ヨロイ掛けの松

18 染井神社 地図B-1 (そめいじんじや)

祭神 神功皇后[ジungkoukougo] (息長足姫命[オキナカタラシメヒメノミコ]) 彦火出見尊[ヒコホホメノミコ] 豊玉姫命[トヨタマヒメノミコ] 玉依姫命[タマヨリヒメノミコ]

境内には、伝説に縁のある「ヨロイ掛けの松」があります。これは、神功皇后が仲哀天皇の白生地を沈められると、その鍬が真っ赤に染まったという伝説があります。



染井の奇跡

今から1500年前、大和朝廷の仲哀天皇は九州の藤原郡(今、福岡県)に遷都された。そのとき、仲哀天皇は、大和朝廷の神官に命じて、九州の各地に神宮を建てさせた。そのとき、仲哀天皇は、大和朝廷の神官に命じて、九州の各地に神宮を建てさせた。そのとき、仲哀天皇は、大和朝廷の神官に命じて、九州の各地に神宮を建てさせた。

19 幸神社 地図C-3 (さいじんじや)

高祖神社の末社で「くぬぎ」地区の鎮守です。この神社に伝説の「們的庚申さま」があります。



「們的庚申さま」(伊勢から飛んできた氏神) 江戸時代の初め、們的(和名)の男の子が、父を殺した罪で、父の仇討ちを命じられた。そのとき、父の仇討ちを命じられた。そのとき、父の仇討ちを命じられた。そのとき、父の仇討ちを命じられた。

20 妙立寺 地図C-2 (みょうりゅうじ)

この寺にある如意輪観音菩薩は妙立寺奥の観音菩薩堂に安置されており、お参りすれば何でも叶うと伝えられています。



「渡唐を拒んだ仏像」(高祖の如意輪観音さま) 承和二年(832年)の秋、京都から妙立山の観音菩薩が、伊都国に運ばれてきた。そのとき、伊都国の人々が、この観音菩薩を拝見した。そのとき、伊都国の人々が、この観音菩薩を拝見した。

「渡唐を拒んだ仏像」(高祖の如意輪観音さま) 承和二年(832年)の秋、京都から妙立山の観音菩薩が、伊都国に運ばれてきた。そのとき、伊都国の人々が、この観音菩薩を拝見した。そのとき、伊都国の人々が、この観音菩薩を拝見した。